



# 6/28(金)・29(土)開催 「G20大阪サミット」における 交通規制等の実施

6月28日(金)・29日(土)の2日間、大阪市住之江区にある「インテックス大阪」で、「G20大阪サミット」が開催される。G20大阪サミットは、37の国と国際機関が参加して行われ、日本で開催されるサミットとしては史上最大規模のものとなる。

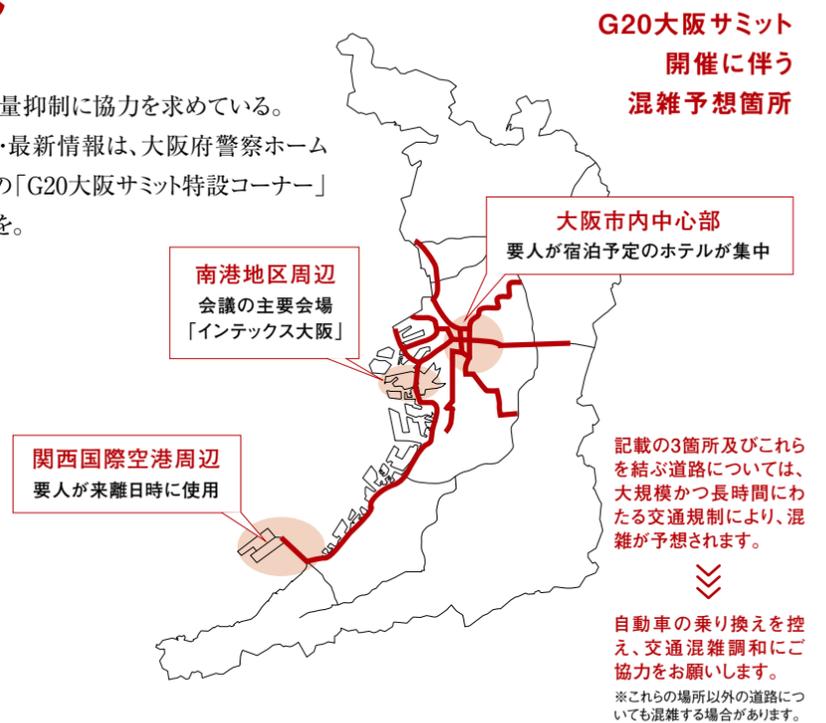
今回のG20大阪サミットでは、自由貿易の推進やイノベーションを通して経済成長と格差への対処の同時達成、SDGsを中心とした開発・地球規模課題への貢献を通じた「人間中心の未来社会」実現を目標に行われる。同時に全国各地で各国の閣僚会合が開かれる。日本のおもてなし精神を世界に世界に発信する良い機会となるが、厳重な警備も必要となってくる。

大阪府警察では、サミットの開催に当たり、重要施設や公共交通機関等に対するテロなどの違法行為の発生を未然に防止するための対策を実施している。「不審な人がいる」、「不審な車が停まっている」、「不審な物が置いてある」、そのような時は、お近くの警察署、交番もしくは警戒中の警察官に通報を。

また、サミット開催両日及びその前後の計4日間(6月27日～30日)については、空港周辺や高速道路、大阪市内を中心に、大規模かつ長時間の交通規制が実施される。開催前後4日間は、マイカーの利用自粛(→電車を利用する)、業務用車両の運行調整(→4日間以外へのシフトや運行時間を深夜・早朝へ変更)などの

交通総量抑制に協力を求めている。

詳細・最新情報は、大阪府警察ホームページの「G20大阪サミット特設コーナー」で確認を。



## 大阪府内初

### みなと銀行が支援学校で金融授業開催

みなと銀行が大阪府教育庁と連携して3月7日に府立吹田支援学校で、生徒の社会参画を応援する金融授業を開催した。これまでは兵庫県内の特別支援学校を中心に開催されていた同授業が、今回初めて大阪府で開催された。授業では現在高等部2年生30名を対象に卒業後の生活に必要な銀行口座の開設手続きや利用方法などについて行員が解説を行った。窓口での手続きや雰囲気を感じながら、本物の通帳やキャッシュカードに触れることで学びを深める内容になっており生徒は楽しみながら参加していた。

同社は今後関西広域に生徒の就労を支援する地域活動の輪を拡げていく予定だ。



府立吹田支援学校での授業風景。体験を交えながらの授業に学生は楽しみながら参加。

## 吹田市

### 中核市への移行申し入れ

吹田市は3月28日に、大阪府へ2020年4月の中核市移行へ向けた同意の申し入れをした。人口が20万人以上の地方自治体は中核市への移行ができ、吹田市は人口

が38万人に近づいている。大阪府内では5市が中核市となっており、2019年4月1日から寝屋川市が新たに加わった。中核市になることで、府の業務の一部を市で担い、迅速な対応が可能になる。

保健衛生についての権限、業務が大きく変わり、保健所と保健センターの両方の機能を市で持つことができるようになり、母子保健の相談窓口の一元化、病院、飲食店の許認可事務、監視、指導を市で行える。景観や環境についての権限も移行されるため、地域特性を活かしたまちづくりができるようになる。



様々な魅力が揃う吹田市でのより豊かな暮らしを目指す造語「suitable city」。

## ごみ減量と再資源化を目指し

### 豊中市が雑がみ回収袋を作成

豊中市が雑がみ回収袋を作成し、今年3月より市の環境イベントやごみ分別の出前講座の参加者にサンプル配布を始めた。

雑がみとは新聞、雑誌、段ボール、牛乳パックなどのいずれにも属さない紙をさすが、リサイクル可能なものも可燃ご

みとして廃棄されてしまうことが多い。豊中市が行った2014年の調査では可燃ごみの約4割が紙類だった。雑がみ回収袋の作成に取り組んだのも、資源に対する市民の意識を高めて可燃ごみを減らすことが目的だ。

市の担当者によれば、雑がみ回収袋を作成してから出前講座の申し込みが急増するなど、環境問題に対する市民の関心が高まっているという。「雑がみの分別は面倒だと思われがちですが、雑がみ回収袋には雑がみの種類や分別方法などがわかりやすく記載されています。家庭ごみの減量や再資源化のきっかけになれば」と話す。

雑がみ回収袋は家庭での雑がみの保管場所として繰り返し利用でき、集めた雑がみは従来通り紙袋や紙箱などに入れて「紙・布」の収集日に出す。回収袋の配布方法などの詳細は豊中市の家庭ごみ事業課まで(06-6858-2275)。



## プラスチック削減案動画

### 吹田市内6大学から募る

近年、世界的にも問題となっているプラスチックの環境問題。吹田市は使用削減の啓発活動の一環として、動画形式で提案してもらった「使い捨てプラスチック削減コンテスト」を開催する。動画の内容は、日常生活で使うプラスチックの使い捨て製品の記録や、それらを出るだけ避けられた生活の実践、さらに削減

アイデアなどを5～10分の動画にまとめたものとしている。吹田市はSNSを活用した啓発も狙うため、発信力の高い大学生を本企画の応募対象とした。コンテストは2019年5月26日関西大学の関西大学会館北棟ホールにて開催。無料で見学できる。また一次選考を通過した動画は吹田市のホームページで公開される。

※市内の6大学(大阪大学、関西大学、千里金蘭大学、大阪学院大学、大和大学、国立民族学博物館)